

登米地域の麦作技術情報 第3号



令和6年6月3日発行
Tel 0220-22-6127

宮城県登米農業改良普及センター
HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

1 調査ほ及び管内の生育概要

5月24日現在の生育状況

品種	町域		播種日 (月/日)	出穂期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)
あおばの恋	豊里	本年値	11/3	4/29	81.6	9.8	980
		前年比・差	-5	-3	83%	118%	171%
		平年比・差	-3	-11	100%	110%	151%
シラネコムギ	迫	本年値	10/31	5/10	62.9	7.4	468
		前年比・差	-7	+5	81%	94%	72%
		平年比・差	-9	-2	83%	91%	97%

*平年値はH31～R5年の5か年平均

あおばの恋の出穂期は4月29日、シラネコムギの出穂期は5月10日となり、出穂期は平年よりも早まりました。

あおばの恋の稈長は平年並、穂長、穂数は平年を上回りました。シラネコムギの稈長、穂長、穂数は平年を下回りました。

2. これからの管理のポイント → 麦類の適期収穫と適切な乾燥調製

1) 適期収穫 … 収穫開始の目安となる子実水分は32～45%です。

麦類は収穫時期が品質に大きく影響しますので、ほ場をよく確認し刈取時期の判断を適切に行いましょう。

収穫時期が早い

選別不良、こき胴などの衝撃による
損傷粒の発生及び搬送部の詰まり



収穫時期が遅い

倒伏や穂切れ、発芽粒や退色粒の
発生、鳥害による損失が増える。

- 成熟期は、大麦で出穂後約40～45日後、小麦で45～50日後です。成熟期の3～4日後が収穫適期となります。ただし、子実水分に注意して刈り取りを行いましょう。
- 子実水分が高いと搬送部の詰まりや選別不良や損傷粒の増加などが生じやすくなります。作業速度の低下や刈取条数を減らすなどして穀粒流量を少なくし収穫作業を行いましょう。
- コンバイン収穫作業の降水量限界基準は、当日5mm以下、前日15mm以下、前々日25mm以下です。
- 成熟期以降の麦は晴天下では急激に乾燥が進みます。特に小麦は降雨後子実水分が上がっても乾きが速く、1日に5%も低下することがあります。大麦は外皮があるため降雨後の水分低下が遅く降雨の影響が大きくなります。

刈取適期の判断のポイント

成熟期

- ・ 茎葉、穂首の黄化
- ・ 子実の褐色
(大麦：黄白色、小麦：褐色)
- ・ 子実は指で押さえて乳汁が出ない
口ウ状の硬さ

刈り取り適期

- ・ 粒が硬くなり、爪で傷つく、力を入れて割れる

刈り遅れ

- ・ 穂がかたむく
- ・ 粒は爪が立たない硬さ

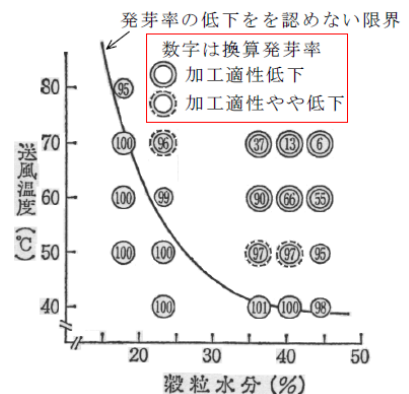
2) 適切な乾燥・調製 … 収穫後は速やかに乾燥機に張り込み、通風させましょう。

高水分で刈り取った麦を収穫後そのまま積み重ね放置すると、高水分な麦ほど短時間のうちに麦温が上昇し変質をきたしやすくなります。また、急激に乾燥させると、発芽率や加工適性が低くなります。

- ・ 循環型乾燥機への張り込み量は最大張り込み量の7～8割、穀温が40℃以内となるよう送風温度は50～60℃、平均毎時乾減率は1.0～1.2%が目安です。

ただし、子実水分が高い場合は張り込み量6～7割、送風温度を40～45℃とし、乾燥が進んでから通常の送風温度に調節しましょう。

- ・ 篩い目は小麦・大麦とも2.4mmを基本とし、子実水分は小麦12.5%以下、大麦13.0%以下に仕上げましょう。



小麦における穀粒水分・送風温度と発芽率・加工適性

3. 赤かび病被害粒混入防止の徹底について

麦類の生育が早まっており、一部では赤かび病の発生が確認されています！
適期収穫、適正な乾燥調製を徹底しましょう！

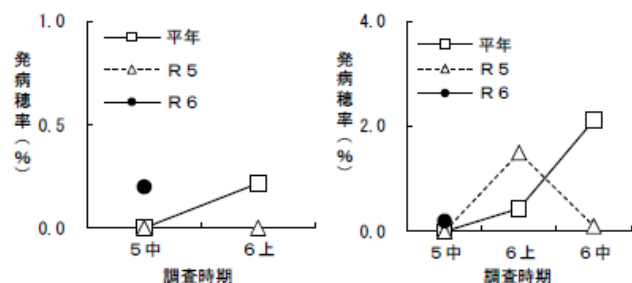
宮城県病害虫防除所 防除情報第1号(5/27発行)

- ・ 定点調査ほ(古川農業試験場)では、大麦及び小麦ともに平年より早く赤かび病の初発が確認された。
- ・ 5月中旬の巡回調査の結果、発生地点率及び発病穂率はともに平年より高かった。

定点調査ほにおける麦類赤かび病の初発日

麦種	品種	初発日	
		本年	平年
大麦	シュンライ	5/2	5/19
	ミノムギ	5/8	5/23
小麦	あおぼの恋	5/15	5/30
	シラネコムギ	5/17	6/1
	夏黄金	5/17	5/31

※定点調査ほ:古川農業試験場



麦類赤かび病の発病穂率の推移
※左図:大麦、右図:小麦
(病害虫防除所)

1) 赤かび病による被害粒

赤かび病菌が産出するかび毒、デオキシニバレノール(DON)は人畜に中毒症状を引き起こすため、農産物検査上、大麦・小麦ともに赤かび粒（赤かび病等により赤色を帯びた粒）の混入限度は0.0%以下（赤かび病被害粒が1万粒中に5粒の混入で規格外）と厳しく設定されています。

2) 収穫・調製時の対策

① 適期収穫

収穫時期が梅雨時期と重なり、降雨や多湿により赤かび病が発生しやすくなるので、刈り遅れないよう適期に収穫しましょう。また、生育が早まっているため、ほ場毎の熟期をよく確認しましょう。

② 発病ほ場では刈り分け

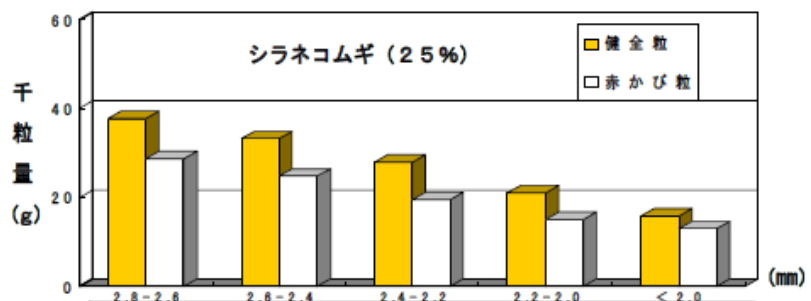
湿害などで麦が弱っている部分では赤かび病の発生が多くなります。発病の多い部分は除外するなどの対策を行ってください。

③ 収穫後は直ちに乾燥

収穫物を高水分状態で放置すると、被害粒が増加しやすくなります。収穫後は直ちに乾燥作業を行いましょう。

3) 赤かび粒の除去

・赤かび病被害粒は粒厚が薄く、また比重が軽い傾向にあります。粒厚選別、比重選別などによる調整を行いましょう



健全粒および赤かび粒の粒厚別千粒重(古川農試 平 17)

注 ()内の数字は出穂約 40 日後における各品種の発病率

4) 次年度の対策

・早めに耕起し被害残渣（麦わらやこぼれ麦等）は早めに耕起し土壌中にすき込む、又はほ場外へ持ち出し、伝染源密度を低下させましょう。

4. 東北地方の向こう1か月の天気予報（仙台管区气象台 5/23発表）

東北地方 1か月予報 (05/25~06/24)		
2024年05月23日14時30分 仙台管区气象台 発表		
向こう1か月 05/25~06/24	天候	期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、東北太平洋側で平年並または高い確率ともに40%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 05/25~05/31	気温	1週目は、東北日本海側で平年並または低い確率ともに40%、東北太平洋側で平年並または高い確率ともに40%です。
2週目 06/01~06/07	気温	2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。
3~4週目 06/08~06/21	気温	3~4週目は、高い確率50%です。

令和6年度 農薬危被害防止運動！！(令和6年6月1日~令和6年8月31日)
「農薬は周りに配慮し正しく使用！」農薬を知る。理解する。適正に使う。